

プランクトン検鏡結果のお知らせ

本日午前、浦ノ内湾のプランクトン調査を行いましたので、結果をお知らせします。

検鏡の結果、魚類に対して有害なカレニア・ミキモイが最高で1,220cells/ml、シャットネラ属が190cells/ml、ケラチウム属が9cells/ml、確認されました。

シャットネラ属は増加傾向で漁業被害が想定される密度を超えている地点がありました。また、カレニア・ミキモイが急激に減少しているにもかかわらず、海水の着色が広範囲で確認され、溶存酸素の低下が確認されたことから、カレニアの死滅が起こっていると考えられます。一般にプランクトンが一斉に死滅する際に海域を貧酸素状態にすることが知られています。このような環境下で給餌や網換えなどを実施すると、養殖魚の酸素消費量が増大し、大量死を招くことがあります。今回の赤潮は実際に被害が発生していることから、餌止めなどより一層慎重な養殖管理をお願いします。

海や養殖魚の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

プランクトン (cells/ml)

調査地点	水深	カレニア・ミキモイ	ケラチウム属	シャットネラ属	ケイ藻類
鳴無	0.5m	0	0	190	わずか
	2m	0	0	160	わずか
	5m	0	0	0	わずか
中学校前	0m	0	0	24	わずか
	2m	1	5	3	わずか
	5m	0	0	0	わずか
	10m	0	0	0	わずか
	B-1	0	0	0	わずか
目ノクソ	0m	0	0	0	わずか
	2m	5	9	0	わずか
	5m	1	0	0	わずか
光松	0m	2	0	0	わずか
	2m	520	2	2	わずか
	5m	3	3	0	わずか
	10m	0	0	0	わずか
	B-1	0	0	0	わずか
大鹿	0m	110	0	0	わずか
	2m	190	0	0	わずか
	5m	1	1	1	わずか
水試小割	0m	440	0	1	わずか
	2m	1220	0	7	わずか
	5m	120	0	1	わずか

漁業被害が想定される細胞密度

- ・カレニア・ミキモイ: 数百～数千cells/ml (魚類等のへい死)
- ・シャットネラ属: 10～100cells/ml (魚類へい死)
- ・ケラチウム属: 100cells/ml～ (餌食いの悪化)

